

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年 9月 26日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200429
法人名	医療法人 同潤会
事業所名	自立の家
所在地	薩摩川内市大小路町51-23 0996-22-8611
自己評価作成日	平成27年6月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年7月31日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは閑静な住宅地の中に有り、幼稚園や保育園、公園や商店街に隣接し恵まれた環境を有しています。また、母体でもある永井病院にも隣接しており、緊急時にも対応できるようになっています。定期的に往診も行われています。他に、同一法人には老人保健施設やデイケア、在宅介護支援センター、訪問介護等の事業所があり、連携を図りながら安心して生活できる環境となっています。地域自治会との交流(お茶飲み会・いきいきサロン)や幼稚園との交流(誕生会・秋祭り等)もあります。敷地内に菜園畑が有り、季節の野菜や花を栽培し、近隣の方々にも楽しんでいただけるようにしています。年に2回地域住民の方々と一緒に消防避難訓練を実施しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは薩摩川内市の中心部に近く、母体医療機関や関連施設である老人保健施設・在宅介護支援センター等に隣接しており、近隣には幼稚園や公園、商店街のある閑静な住宅地に建てられている。母体医療機関や関連施設との連携は緊密であり、十分な支援体制が整い、利用者や家族からの信頼は極めて厚いものがある。

○地域の自治会に加入して、清掃活動や地域のいきいきサロンには積極的に参加している。ホームで定期的に行われるお茶のみ会や法人の夏祭り・敬老会・花見等にも来訪者が多く、散歩の際は親しく挨拶や会話を交わすなど地域とのつながりは深いものがある。また、近隣の幼稚園とは毎月お互いの行事で相互に訪問して交流し、利用者はこれらの機会を楽しみにして日々を過ごしている。

○運営推進会議はホームで毎回テーマを設定して、多くの委員の参加を得て定期的に行われている。ホームの現況や活動報告、認知症についての勉強会及び問題点や設定テーマに関する意見交換が活発に行われ、得られた意見や提案を職員で共有して、具体的に日々のサービス向上や業務の改善に役立てている。

○良好なチームワークの基で管理者と職員とのコミュニケーションは非常に活発で、管理者は日常のミーティングや対話とともに、毎月の業務ミーティングを通じて意見や提案の把握に努めている。得られた意見や提案は必要に応じて代表者とも相談し、就業環境や業務の改善、利用者へのサービス向上に可能な限り反映するように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内に複数掲示してあり、復唱、確認している。利用者を中心とした生活リズムができるよう、また、地域の方々との交流が図れるよう朝・夕申し送り時に職員間で情報を共有している。	ホームの新築移転に伴い見直し作成した理念を基に、利用者がそれまでの暮らしと同じように、また、利用者個々に合ったその人らしい生活が送れるように支援に取り組んでいる。理念は掲示して、毎月の業務ミーティングや日々の申し送りで意義を確認しケアへの反映に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	原馬場自治会に加入している。いきいきサロンやお茶飲み会を通じて交流を図っている。近隣の幼稚園の行事に参加したり、公園の掃除や花壇の手入れを地域の方々と一緒にしている。	自治会に加入して地域の清掃活動やいきいきサロン等に積極的に参加しており、近隣の幼稚園とは相互の行事で行き来するなど交流は活発である。日常的に散歩や買い物に出かけて地域の人々とふれあい、ホームのお茶のみ会や法人の夏祭り・敬老会・花見等にも来訪者が多く、利用者はこれらの機会を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	「お茶飲み会」や「運営推進会議」に参加していただき、ビデオやスライドを使っての勉強会を開催したり、「自立の家だより」を回覧していただき、当ホームでの生活を紹介し、認知症についての理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一年間のテーマを設定し、民生委員、市役所担当者、町おこし会、寿高齢者会、家族等が参加し、話し合いを行っている。特に災害時の避難については関心が高く、情報交換を行っている。	会議は毎回テーマを設定して、利用者や家族・民生委員・地域住民・市職員等多数の委員が参加して定期的に開催されている。ホームの現況や活動報告、認知症や感染症等の勉強会及び毎回のテーマについての意見交換が活発に行われ、得られた意見や提案を職員で共有して、具体的に日々のサービス向上や業務の改善に役立てている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>薩摩川内市介護サービス事業者連絡会や研修に参加し、情報を得るようにしている。また、必要に応じて直接市の担当者に連絡し、アドバイスをもらうなどして連携を図っている。生活保護受給者も入居中であり、担当者とも連携を図っている。</p>	<p>市担当者には毎回の運営推進会議に出席して頂くとともに、電話や訪問で頻繁に利用者の暮らしぶりやニーズに関すること、また各種の手続き上の相談ごとに助言・対応して頂くなど、協力関係の構築に積極的に取り組んでいる。また、介護サービス事業所連絡会や案内される研修会等にも出席して意見や情報の交換に努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束についての勉強会を行い、理解を深めている。特に言葉による拘束があることを強く認識し、朝・夕の申し送りで話し合いを行っている。法人内でも定期的に研修があり、参加している。</p>	<p>居室や玄関等の施錠を行わないケアに取り組んでおり、職員は連携して利用者の見守り方法の徹底に努めている。特に言葉による拘束の防止を含む身体拘束については、朝夕の申し送りや日常のケアをはじめとして、毎月の業務ミーティングや委員会、法人全体の研修等で繰り返し理解を深めるとともに、安全には十分に配慮しながら利用者がその人らしく暮らせるように支援に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体的な虐待だけではなく、言葉による心理的な虐待や、介護放棄、経済的虐待もあることを認識し、日々の申し送りや定期的な研修を通して虐待を見逃すことがないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修会等に参加し、制度の理解や利用方法について学ぶ機会を持っている。制度利用者が1名おり、担当者とも連携を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に本人や家族に対して利用約款に基づいて重要事項や生活の様子を説明し、同意書に署名、捺印をいただいている。退所時も本人家族の希望を聞き、対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の会話や面会時、家族会の時などに本人や家族の意見や要望を伺っている。また、意見要望ノートを窓口に設置して、頂いた意見は職員のミーティングで話し合い、要望に応じることができるよう努めている。	利用者の思いや意見は日常会話や所作の見守りなどで、ご家族とは来訪時および花見やクリスマス会時の家族会の際に、話しやすい雰囲気作りを努めて多くの意見を頂いている。これらは生活記録や申し送りノートで共有を図り、朝夕の申し送りや毎月の業務ミーティング等で必要な対応を話し合い、サービスに具体的に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送りやミーティングで、各職員からの意見を聴いたり、管理者が意見を取りまとめ、必要に応じて話し合いを行っている。法人内の業務委員会等を通じて理事長への相談も行っている。	管理者は、朝夕の申し送りや日常ケアのほか毎月の業務ミーティングで職員の意見や提案の把握に努め、必要に応じて代表者とも相談し、就業環境や業務の改善のほか利用者へのサービス向上への反映を図っている。また、介護関連の施設で行われている業務改善委員会でも職員からの意見や提案に基づく話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格所得やスキルアップにつながるよう、勉強会等を行い、必要に応じて勤務時間等の調整等を行っている。また、年に2回健康診断を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で各種研修会をおこなっており、毎月参加している。また、外部研修にも積極的に参加し、職員育成に取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島県認知症グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会に参加している。また、必要に応じて情報交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の生活状況の聞き取りをしっかりと行い、家族や関係各機関との情報の共有を行っている。本人とは、共通の話題を提供するなどして馴染みの関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている問題や不安、要望等をしっかりと聞き、必要に応じた情報を収集し、話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人家族の希望や要望をしっかりと聞いて、各種情報とともに総合的に判断し、必要なサービスの支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、掃除や洗濯物たたみ、食事の後片付けなど、出来ることを職員と一緒に行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日常生活の様子や健康状態についてご家族に伝えている。遠方の家族には「自立の家だより」や運営推進会議事録等を送付し、近況を伝えている。家族会も開催している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に参加したり、外出行事やドライブに出かけた際に馴染みの場所に立ち寄るなどしている。また、地域の方々や家族が来られた際にゆっくりと過ごせるような雰囲気作りを心がけている。	入所時の聞き取りや日常会話から、商店での買い物や近隣のドライブ等本人の希望を把握して、必要に応じてご家族とも相談のうえで可能な支援に努めている。ご家族や利用者の知人・友人の来訪時には、居室やリビングでゆったりと過ごせるように配慮している。近隣の散歩の際やホームでのお茶のみ会でも馴染みの方々との会話を楽しんで頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の座席の配置などを工夫し、お互いに話しやすい雰囲気作りをしている。洗濯物の仕分けなどで名前を呼び合ったりお互いの部屋を行き来できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同一法人の施設や病院に退所されることが多く、必要に応じた情報提供を行っている。その後の状況についても職員間で情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や動作から本人の意向を汲み取り、本人の望む生活が続けられるように支援している。本人のほか、家族や親しい人からの情報を共有し、職員間でも話し合いを行っている。	入所時の本人や家族からの聞き取りや、日常会話、家族からの情報で思いや意向の把握に努めている。これらは生活記録や申し送りノート、朝夕のミーティングで共有を図り、必要な対応を検討して、ご家族とも相談しながら利用者にとって最良の支援となるように努力を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や好みなどの聞き取りを行い、必要に応じて馴染みのものや使い慣れたものを持ってきていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の生活のリズムを把握し、好みの活動やこれまでの日課を続けられるように支援している。活動中の様子や会話、表情を観察し、職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向や要望を主治医や各職員と話し合い、ケアマネジャーを中心に計画を作成している。職員間での話し合いや情報共有にて必要に応じた変更を行っている。	本人・家族の意向や希望、母体病院の主治医をはじめとする関係職員からの意見も含めて話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させて利用者本位のわかりやすい介護計画を作成している。また、定期的な評価や見直しのほか、利用者や家族の要望や変化があれば、職員の意見や提案も反映して計画修正を適切に行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の状況、日々の日課を個別に記録している。ほかに、申し送りノートなどを使って職員間での情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の方々との交流や家族との外出・外泊、外出行事を積極的に行っている。様々な要望に応じることができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会や老人会、市の連絡会等にて情報を収集し、必要に応じて相談したり、助言をいただいている。避難訓練は消防署の指導のもと地域の方々と一緒に実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院にて定期的に診察を受けている。専門病院の受診が必要な場合は本人・家族・主治医の意見を聞き、情報提供、付き添いを行っている。	現在は利用者全員が母体病院をかかりつけ医としており、通院のほか毎月の往診を受けられる。また、緊急時対応も迅速であることが安心して過ごすことにつながっている。専門医の受診の際は情報提供書を活用して情報交換に努め、ご家族へも電話や来訪時に適切に報告を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の利用者の健康状態は申し送りや電話連絡にて情報を伝達して連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供書を添付し関係各機関と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明をもとに説明している。重度化や終末期については本人・家族・主治医と十分に話し合いを行い、適切なサービスが受けられるように情報の提供を行うなどして支援している。	重度化や終末期のケアについては、入居時に重要事項説明書で、ホームで対応できる基本方針を説明し同意を得ている。様々な変化の都度、本人や家族および医師をはじめとする関係者と十分に話し合うとともに、重度化による退所の際も、母体病院や老健等の関連施設と連携してホームで行える可能な限りの支援ができる体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で定期的に研修会があり参加している。部署内でもマニュアルに沿って勉強会や訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の指導のもとに地域住民にも参加してもらって訓練を実施している。また、地震や火災、風水害や夜勤帯など様々な場面を想定し対応について各職員周知徹底している。非常食、飲料水の備蓄あり。</p>	<p>地域の消防署や住民の協力を得ながら地震や火災を想定した避難訓練を年2回実施している。また、スプリンクラーや自動通報装置の設置、食料や飲料水の備蓄もなされ、救命講習等の研修も行われている。また、運営推進会議でも避難経路の確保や訓練の工夫等について話し合いが行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活上の助言や声掛けは、個人の人格を尊重し、プライドを傷つけることがないように十分に配慮している。言葉使いについては、朝夕の申し送りや勉強会を行い、適切な対応に努めている。	居室の保護や排泄・入浴・食事等の支援に際して、利用者の誇りやプライバシー確保のための声かけや言葉遣い、対応を職員が相互に確認しあい理解を深めながら取り組んでいる。関連する研修やマニュアルの整備もなされ、認知症について正しく理解するためにテレビや新聞も活用しながら日々のケアへの反映を図っている。また、各種の個人記録も適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話や動作から利用者の希望や要望を汲み取り、日常的に利用者自身が選択・決定できるような声かけ、働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や気分によって一日の過ごし方を調整できるようにしている。ひとりひとりのペースに合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に応じた衣類を準備し、本人と一緒に選んでいる。いつでも身だしなみを整えることができるように共用部分や各居室には鏡付き洗面台を設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	適温で食べていただけるように配慮している。利用者の体調に応じてたやすい形態の食事を提供している。見た目でも楽しむことができるように盛り付けを行っている。また、季節ごとの行事食も準備している。味付け等の意見は給食委員会で話し合い、検討している。	日常会話で把握できた利用者の好みを給食会議を通じて栄養士に伝え、献立や味付けに反映させている。菜園での野菜の収穫や食事の準備、後片付けなどを利用者の能力に応じて一緒に行っている。また、盛り付けの工夫や適温の食事提供にも十分配慮している。おせち料理を始めとした季節の行事食やソーメン流し、クリスマスのケーキなど利用者の楽しみにつながる工夫も行っている。今後は寿司店での外食なども企画検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士がカロリー計算を行い管理している。食事の摂取量や水分量は個別に記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行うように声かけ、必要に応じて介助を行っている。義歯は洗浄剤を使用し清潔保持に努め、必要時には歯科の往診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握し、トイレへの声かけや誘導を行っている。活動や食事の前後にトイレへ行く時間を設けることで安心して活動に参加することができている。	生活記録による排泄チェックや様々な活動の際の適宜の声かけ誘導で、利用者の不安や羞恥心の軽減にも配慮しながら排泄の自立に向けた支援を行っている。これらの工夫はケアプランにも反映して、利用者個々の習慣に合わせたさり気ない支援となるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄チェック表にて把握している。食事、水分、運動との関連を把握して、生活リズムを整えるように支援している。必要に応じて主治医や栄養士とも連携を図っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居前の生活習慣等も考慮して、個人の要望に対応している。体調や気分によって曜日や曜日を変更するなど、柔軟に対応できるようにしている。入浴ができない場合には清拭や着替えを行い清潔の保持に努めている。	入浴についての希望は本人より聞き取り、健康状態や安全面に配慮しながら、場合によってはシャワー浴や清拭・足浴等に変更することも含めて入浴が楽しめるように柔軟に支援している。入浴を拒否される場合には、その理由をゆっくりと時間をかけながらお聞きして、言葉かけの工夫や時間帯を変更するなど気分転換を図るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを整え、日中活動し、夜間に睡眠が取れるように支援している。夜間不安を訴えるときには本人の思いに寄り添い、安心できるように関わりを持っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は説明書や医師からの説明により効能・副作用を理解し服用後の異変がないか観察、体調の確認を行っている。異変があるときには速やかに主治医に連絡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に家族や本人から生活歴や趣味、好みをしっかりと聞き取り、楽しみが継続できるように支援している。それぞれの好みに応じた活動ができるように働きかけている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近隣の公園や買い物、散歩はその日の天候や希望を考慮して出かけている。季節の行事や外出行事も企画しており、家族や地域の方々の協力を得ながら実施している。	利用者の健康状態や天候を見ながら、ホームの花壇や菜園の手入れ、本人の希望に沿って散歩や買い物・近隣のドライブ等に出かけている。また、時には運営推進会議での地域の方々の意見も仰ぎながら、地域の祭りや川内川の鯉のぼり見学、近隣の幼稚園の行事、ソーメン流しやイチゴ狩り、季節の花見など外出を数多く企画して、可能な限り楽しく過ごせるように工夫・支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から買い物代金を預かり管理している。日用品の買い物や外出行事の際の買い物などに使っている。利用者自身が品物を選び支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者からの希望に応じて家族に電話をしたり、家族からかかってきた際にはゆっくりと話ができるように配慮している。年賀状等のやり取りができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は落ち着いた色彩で、過度な装飾をしないようにしている。共用スペースには手作りの壁絵や行事の写真などを飾り、家庭的な雰囲気を大切にしている。	リビングや廊下の壁には、利用者と職員が共同で作成した季節感のある貼り絵や行事の写真などが飾られ、落ち着いた雰囲気の中でゆったりと過ごせるように工夫されている。建物の内部は落ち着いた色合いの壁紙が用いられ、日当たりもよく明るく、室温や換気調節にも十分な配慮が感じられる。利用者にとって不快に感じる音や匂いもなく、気持ちよくくつろげるような環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファを置き、気軽に他者と交流ができるようにしている。また、他者が活動中にはソファに座り、ひとりの時間を楽しむこともできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物や馴染みの小物などを持ってきていただき、安心してすごすことができる空間創りを心がけている。	居室は全室フローリングで、ホームが準備したベッドやタンス・洗面台・エアコンが設置されている。本人や家族の希望に合わせて写真やぬいぐるみ・時計・日用品などを自由に持ち込んでもらい、本人が自分の部屋として落ち着いて生活できるように支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、各所に手すりが設置してある。また各居室には表札があり、部屋を間違えることがないようにしている。食堂には見やすい時計とカレンダーがあり、日付や時間がわかるようにしている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない